



## 講義要項

科目	理学療法総合演習 I	担当講師	白石 和也・松崎 智幸
対象学年	第3学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・実習1単位・60時間
概要	理学療法実施に必要な基礎知識と思考過程を総合的に学ぶ。また、理学療法実施に必要な技術を総合的に学ぶ。 この科目は、各々が臨床実習Ⅱでの学びを振り返り、課題点を修正するとともに、臨床実習ⅢⅣおよび卒業後の臨床に向けて理学療法に関する知識・思考・技術・情意を総合的に学び、習得することを目的としている。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 症例の理学療法プロセスにおける思考過程が説明できる。</li> <li>2. 症例に対し理学療法評価・治療が実施できる。</li> <li>3. 症例の経過記録をSOAPにて記載できる。</li> <li>4. 症例の再評価データから、効果判定が実施できる。</li> <li>5. プロセスノート等の実習書類が作成できる。</li> <li>6. 自ら助言・指導を求めることができる。自ら学ぶことができる。</li> </ol>		
教科書	理学療法評価・治療・思考に関する教科書 基礎医学・臨床医学に関する教科書 その他必要な教科書		
参考書	国試の達人 実習要綱、臨床実習Ⅱ実習書類 その他適宜配布		
学習評価	単位認定試験は11月に実施する。 実技試験100%のうち60%以上を合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考	授業ごとの予習・復習を必須とし、規定の予習・事前課題を行ってこないものは講義に参加する権利はない。 グループワークを主体とするため、ワーク内で発言をしないものは講義に参加する権利はない。 実技を行う際に身だしなみが不適切なものは、講義に参加する権利はない。 提出課題において、内容及び体裁の不備が著しい場合、再提出の対象となる。		

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1	骨関節障害ケース 病態整理～仮説	講義
2	骨関節障害ケース 病態整理～仮説 思考過程共有	講義
3	骨関節障害ケース 検査測定の実施	実習
4	骨関節障害ケース 統合解釈～治療プラン立案	講義
5	骨関節障害ケース 統合解釈～治療プラン立案 思考過程共有	講義
6	骨関節障害ケース 治療の実施	実習
7	骨関節障害ケース 経過記録作成 再評価提示	講義
8	骨関節障害ケース 効果判定作成	講義
9	骨関節障害ケース 効果判定共有 リハ実施計画作成	講義
10	骨関節障害ケース リハ実施計画書説明・同意 まとめ	講義・実習
11	神経障害ケース 病態整理～仮説	講義
12	神経障害ケース 病態整理～仮説 思考過程共有	講義
13	神経障害ケース 検査測定の実施	実習
14	神経障害ケース 統合解釈～治療プラン立案	講義
15	神経障害ケース 統合解釈～治療プラン立案 思考過程共有	講義
16	神経障害ケース 治療の実施	実習
17	神経障害ケース 経過記録作成 再評価提示	講義
18	神経障害ケース 効果判定作成	講義
19	神経障害ケース 効果判定共有 リハ実施計画作成	講義
20	神経障害ケース リハ実施計画書説明・同意 まとめ	講義・実習
21	内部障害ケース 病態整理～仮説	講義
22	内部障害ケース 病態整理～仮説 思考過程共有	講義
23	内部障害ケース 検査測定の実施	実習
24	内部障害ケース 統合解釈～治療プラン立案	講義
25	内部障害ケース 統合解釈～治療プラン立案 思考過程共有	講義
26	内部障害ケース 治療の実施	実習
27	内部障害ケース 経過記録作成 再評価提示	講義
28	内部障害ケース 効果判定作成	講義
29	内部障害ケース 効果判定共有 リハ実施計画作成	講義
30	内部障害ケース リハ実施計画書説明・同意 まとめ	講義・実習

## 講 義 要 項

科目	臨床理学療法実習Ⅲ(総合臨床実習)	担当講師	白石 和也・松崎 智幸
対象学年	第3学年	時期・単位数・時間数	前期・実習8単位・360時間
概要	基本的理学療法をある程度の助言・指導の下で実施する。		
目標	<p>ある程度の助言・指導のもと基本的な理学療法を実施することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療人としての態度(学習意欲・学習態度を含む)を有する</li> <li>2. 疾患の病態整理ができる</li> <li>3. 必要な情報を収集することができる</li> <li>4. 対象者の仮説が立てられる</li> <li>5. 理学療法の検査測定を実施することができる</li> <li>6. 障害構造を把握することができる</li> <li>7. 6の項目を実施することができる</li> <li>8. 理学療法の治療計画を立案することができる</li> <li>9. 理学療法の効果判定をすることができる。</li> <li>10. 理学療法評価、治療内容を記録・報告することができる</li> </ol>		
教科書	実習要綱・評価ファイル その他資料適宜配布		
参考書			
学習評価	<p>実習後評価にて成績評価を実施する。          実習後評価は、思考1課題(レポート課題)、実技2課題で構成され、実技は2課題の平均点を用いる。          思考100%のうち60%以上かつ実技100%のうち60%以上を合格とする。          成績評価は、思考と実技(2課題の平均点)の点数を足して2で除した点数(小数点切捨て)とする。          なお、実習における学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。</p> <p>再試験については、実習後評価にて60%に満たなかった分野(思考、実技)を実施する。          実技については2課題実施し、その平均点を用いる。          思考、実技ともに該当する場合は、思考100%のうち60%以上かつ実技100%のうち60%以上を合格とする。          思考のみ該当する場合は、思考100%のうち60%以上を合格とする。          実技のみ該当する場合は、実技100%のうち60%以上を合格とする。</p>		
実務経験のある 教員等による 授業	理学療法士として5年以上臨床業務に従事し、かつ臨床実習指導者講習会を修了している病院・施設の理学療法士が、現場での臨床経験及び職員・学生教育の経験等を活かし、学生に理学療法評価および治療(臨床理学療法実習Ⅱの内容に加え、治療の実施とその記録等)に関する助言指導を直接的かつ継続的(7週間)に行う。多様な経験を積むことができるよう、臨床理学療法実習Ⅱおよび臨床理学療法実習Ⅳとは異なる実習地で実施する。詳細は実習要綱参照。		
備考			

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1～14	実習前評価(思考・実技)	演習・実習
15～26	事前セミナー	
27～166	臨床実習	
167～178	事後セミナー	
179～188	実習後評価(思考・実技)	